

NEWS

New hospital of East, West and South medical centers

vol.70 | 新体制始動



Kuwana City Medical Center

2018年4月桑名東・西・南医療センターが1つになり新病院が誕生しました。

Take Free

理事長・病院長 就任

2018年5月に新病院が開院してから6年が経過しました。この間、開院当初には不在だった救急専門医2名が常勤として着任し、救急医療体制がより強化されています。また、手術件数も増加の一途をたどり、2022年7月に導入した手術支援ロボット「ダビンチ」により、特定の診療科では、より高度で安全な手術が可能となりました。

当センターはがん診療連携拠点病院として、がん患者さんのために手術、化学療法、放射線治療に加え、それらを組み合わせた集学的治療や緩和ケアに至るまで、高水準の医療を提供し続けてまいります。また、今年5月からは地域周産期母子医療センターに認定され、産科と小児科の連携のもと、ハイリスク妊娠を含む周産期医療の充実にも力を入れてまいります。

桑名地区における急性期医療の中核病院として、職員一同、安心・安全で質の高い医療を提供すべく尽力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事長 しらいし たいぞう
白石 泰三

専門領域
病理診断
検査医学
細胞診断

1979年三重大学医学部を卒業後、病理学の道へ進む。1983年に同大学院を修了。福井医科大学助教授を経て、1990年三重大学医学部助教授となり、1999年同教授および附属病院病理部長に就任。2016年からは桑名市総合医療センター副理事長、2024年9月同センター理事長に就任

病院長 やまだ のりかず
山田 典一

専門領域
循環器内科
肺高血圧症
肺血栓塞栓症
静脈血栓塞栓症

1989年三重大学医学部を卒業し、複数の病院で臨床研修を積む。1993年アメリカのベイラー大学で研修後、三重大学内科学講座で勤務し、2005年同大学院講師、2016年准教授に昇進。2017年に同附属病院教授を経て、桑名市総合医療センター副病院長兼循環器センター長に就任。2024年同センター病院長に就任。

診療科長の紹介

桑名市総合医療センターでは、それぞれの診療科が地域の皆さんの期待に応えられるよう、日々努めています。患者さんとご家族が安心して診療や治療を受けられるよう、常に先頭に立って診療チームを率いている、頼もしい診療科長を紹介します。



腎臓内科
やすとみ まさし
科長 **安富 真史**



呼吸器内科
ゆだ ひさみち
科長 **油田 尚総**



小児科
もりたに ともこ
科長 **森谷 朋子**



産婦人科
まえだ よしき
科長 **前田 佳紀**



消化器・一般外科・乳腺外科
まちし ひでき
科長 **町支 秀樹**



心臓血管外科・呼吸器外科
ゆあさ うひと
科長 **湯浅 右人**



整形外科・リウマチ科
なかせこ けん
科長 **中瀬古 健**



脳神経外科
さかいだ ひろし
科長 **阪井田 博司**



眼科
こざわ まき
科長 **小澤 摩記**



循環器内科
おおむら たかし
科長 **大村 崇**



消化器内科
いしだ さとし
科長 **石田 聡**



糖尿病内分泌内科
きたがわ ながこ
科長 **北川 良子**



膠原病リウマチ内科
こでら ひとし
科長 **小寺 仁**



血液内科
わたなべ たかし
科長 **渡辺 隆**



脳神経内科
おおだち きよみ
科長 **大達 清美**

第2回 権田記念 病院貢献賞 表彰式

令和6年5月15日(水)第2回権田記念 病院貢献賞表彰式が挙行されました。



キング観光株式会社
権田 清 代表取締役社長



当センターでは令和5年にキング観光株式会社ご協力のもと「権田記念病院貢献賞」を創設し、院内における診療や患者サービス向上、業務改善などに目まぐるしい業績を挙げた部署や職員を対象に表彰を行っています。今年度は16件の応募があり、ポスターによる活動紹介を経て、職員による投票が行われました。厳正なる審査の結果、1位～3位には賞状と目録、入賞7部門には副賞として賞金が贈呈されました。

『能登半島地震支援活動 3期にわたるDMAT派遣とその活動』



DMATとは災害派遣医療チームの事でDisaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって略して「DMAT (ディーマット)」と呼ばれています。当院は災害拠点病院であり、DMATを擁しています。2024年1月1日に石川能登半島地震がおり、1月2日～5日、14～17日、26～30日の合計3回現地で活動しました。現地では、余震が続く中DMAT隊の活動拠点(指令所のようなもの)の立ち上げ、福祉施設の居住者の方の健康チェックなどの対応を行いました。今回の派遣でご理解・支援を頂いた職場の方々に御礼を申し上げますとともにこの経験が今後の活動に活かせるよう頑張っています。

『栄養管理室の取り組み』



病院貢献賞を受賞できたことを大変嬉しく思うとともに、心より感謝申し上げます。栄養管理室では、日本ゼネラルフードのスタッフと協力し、より良い栄養・給食管理を目指して日々取り組んでいます。昨年度は病院機能評価の栄養管理機能部門でS評価をいただけたこと、JSPENの病院食コンテストでベスト16位までに選ばれたことなど、これまでの積み重ねが実を結ぶ出来事が多くありました。今後もNSTはじめ、皆さんのお力を借りながら、患者さんのための栄養管理に努めて参ります。



泌尿器科
おぐら ゆうじ
科長 **小倉 友二**



放射線科
かわぐち たつや
科長 **川口 達也**



歯科口腔外科
かとう ひではる
科長 **加藤 英治**



救急科
ふじおか まさき
科長 **藤岡 正紀**



病理診断科
しらいし たいぞう
科長 **白石 泰三**



麻酔科
あまの ほまれ
科長 **天野 誉**

『ゆめっこ保育園の活動』



2023年4月から、病院直営の保育園となり夜間保育も行い夜勤業務のある看護師の方が利用されています。現在は7か月～就学前の50名の子供たちが元気に過ごしています。念願であった給食も開始されました。炊きたての温かいご飯やスープ手作りおやつなどみんな美味しくいただいています。偏食のあった子ども達も好き嫌いなく何でも食べられるようになり、保護者の方からも大変喜ばれています。本当に日々の食育の大切さを実感しています。ゆったりとした環境の中で子どもたちがすくすく成長し楽しく過ごせるように努め、保護者の皆さんとのコミュニケーションを大切にして、子供たちの成長をともに喜びたいと思います。

令和6年能登半島地震 桑名DMAT活動



令和6年1月1日午後4時10分頃、石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する大地震が発生し、建物の倒壊、津波、火災など、甚大な被害を引き起こしました。

全国から支援者が集う中、当センターからもDMATが3隊出動し、被災地での支援活動を行いました。

DMATって何？

「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、災害派遣医療チーム「Disaster Medical Assistance Team」の頭文字をとって「DMAT(ディーマツト)」と呼ばれています。



活動物品を積んだ車両

道路(通行止)状況

輪島市・穴水町の被害状況

DMAT活動は基本的に自己完結型であるため、資器材の他、飲料や寝袋など多くの物品を持参しました。道路被害は「人(被災者・支援者)」と「物(支援物資)」の移動の妨げになっていました。また、断水によりトイレの水が流せないなど、劣悪な衛生環境が問題となっていました。災害時におけるインフラ・ライフライン・公衆衛生などへの対応の重要性を再認識しました。

当センターは、災害時に地域の医療を担う「災害拠点病院」に指定されています。

その責務を果たすため、今後三重県で起こりうる災害時に今回の経験を活かすことができるように努めていきます。

最後になりますが、今回被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

被災地の1日も早い復興を心よりお祈りいたします。

1次隊(令和6年1月2日～1月5日／市立輪島病院)

■派遣隊員

[医師] 畑田剛 [看護師] 水谷美穂、相内涼 [業務調整員] 西川嘉広、栗田祥司

■主な活動内容

・診療支援(救急外来・病棟) ・物品管理及び搬送 ・搬送患者の選定、搬送方法の調整 など



DMAT本部

救急外来付近

病棟支援引継マニュアル作成

病院も被災したことにより診療機能が低下していたため、一部の患者さんを被災地外へ搬送するための調整を行いました。病院職員の方々は交代もなく働き続けていたとのことでした。負担を軽減できるよう、救急外来や病棟においてDMAT隊員が交代要員となり診療支援を行うとともに、継続的な支援となるよう後続のDMAT隊への引き継ぎを行いました。

2次隊(令和6年1月14日～1月17日／輪島市役所・輪島市内の高齢者福祉施設)

■派遣隊員

[医師] 脇坂太貴 [看護師] 岩谷美佳、松本恵美 [業務調整員] 栗田祥司

■主な活動内容

・施設入所者の健康状態管理、定期処方の確認
・施設ライフライン情報の収集 ・施設避難者リストなどの資料作成 など



輪島市役所内

輪島市役所内での会議

高齢者施設玄関の様子

DMAT、自衛隊等、様々な団体がエリアを分けて活動していました。輪島市内で活動中のDMATが参加し、活動報告を行う共に課題点などを共有しました。施設入所者の健康管理のため訪問。玄関付近のブロックが崩れ危険な状況でした。

3次隊(令和6年1月26日～1月30日／輪島市門前地区福祉避難所)

■派遣隊員

[医師] 今井寛 [看護師] 水谷美穂、相内涼 [業務調整員] 西川嘉広

■主な活動内容

・生活物資の調達、環境調整 ・段ボールベッドの搬送及び設置 など



福祉避難所

生活物資の調達

段ボールベッド組み立て

輪島市門前地区において福祉避難所を巡回し、医療ニーズの抽出や支援物資の調整業務を行いました。

段ボールベッドは動きやすさや吸湿性に優れており、また温かいため低体温や感染対策など多くのメリットがあります。

新人看護師の 1年間に密着！

Vol.1
入職～2ヶ月編

今年度は新卒・既卒28名の新規採用者(看護師・助産師)を迎えることが出来ました。今回から2回に分け、当センターに入職した新人看護師の1年間を紹介していきます。1回目は入職から2ヶ月までの様子です。

入職初日と2日目は看護部以外の職員も含めた新規採用者全体の合同研修を行い、当センターの規則や医療安全、感染対策について学びました。3日目は看護部主催の新入職者オリエンテーションを行いました。4月10日からは配属先でのOn the Job Training(OJT)が始まりました。この研修では、現場で実務を行いながら指導者が実践的な知識やスキルを身につけます。

「1年目は元気に出勤してくれば十分」

当センターでは、入職された方と少しでも長く一緒に働きたいと考えています。日本看護協会の「2023年病院看護実態調査」によると、新人看護師における離職率の全国平均10.2%となっていますが、当センターでは年度によるばらつきはありますが、ここ数年4%以内にとどまっています。初めて働くみなさんにとって、1年目は特に不安な毎日ではないでしょうか。看護部では「1年目は(知識や技術よりもメンタル面に重きを置き)元気に出勤してくれたらそれで十分」だと考えています。看護師として知識や技術は必要ですが、これらは段階的に学ぶ機会を提供していますので安心してください。

「近隣の医療機関との合同研修」

当センターの新人看護職員教育は、厚生労働省新人看護職員研修ガイドラインに準拠した研修を企画しています。4日目から5日間にわたり、教育委員会主催の各種研修が行われます。この研修は、三重県新人看護職員研修事業に基づき、当センターの新人看護職員だけでなく、四日市消化器病センターや大仲さつき病院、長島中央病院、もりえい病院、桑名病院の新人看護職員と合同で開催しています。



オリエンテーション (3日目)

テーマ 「桑名市総合医療センター 看護部職員としての第一歩」

- ①看護部全体の組織や約束事を知ろう
- ②一緒に働く仲間を知り、職場の上司を早く覚えよう

オリエンテーション内容

- ・看護部組織について
- ・看護提供方式について
- ・クリニカルラダー*について
- ・日本看護協会・三重県看護協会と看護連盟について
- ・仲間を知ろう(配属部署発表)
- ・入職1年目としての個人情報保護と接遇(身だしなみ)
- ・看護部教育体制とナースングスキル
- ・労務管理について
- ・各部署紹介(18部署+専門・認定委員会)



教育委員会主催の「口腔ケア」研修の風景です。看護職員だけでなく、他職種も看護教育に関わって頂いています。

3日目にはみなさん一人一人の配属先を発表します。事前に提出いただいた要望(第3希望まで)をかなえられるよう様々な調整をしていますが、全ての新入職員が納得できる配属先を設定することは難しい状況です(今後も努力します！)。でも、大丈夫！たくさんの先輩が新人職員を見守っていますので、安心して働いていただくことができます。次ページでは8階南病棟の部署紹介をご覧ください。

ようこそ！
8 階南病棟へ

師長です



この病院に来て 7 年
野球観戦が大好きです

リーダー
たちです



頼もしい＆楽しい
皆さんです
個性豊かで
仲が良いです



皆さんに近い
(若めの)
Ns たちです②



看護助手さんたち
&
クラークさんです



頼もしく、明るい補助者さんです
いろんな気づきを教えてください

主任です



頼れる指導者の鏡です
スーパーエイター？

仕事はキッチリ
料理好き
スヌーピー
大好きです♡



皆さんに近い
(若めの)
Ns たちです①



控えめな人が多いかも
仕事中はまじめな顔です

ママナース
たちです



子育てしながら時短で働いています
時に Ns のお母さんにもなります

ご清聴ありがとう
ございました



新人看護師からの声

他の新人看護師の生の声を聞くことができました。評価は研修後です。研修がどの程度活かされているのかについては部署任せになっていると思うので、次年度はこの声を踏まえて計画を修正します。



講義の内容は理解できたが、具体的なイメージは持てなかった。配属部署に来てすぐは分からないことばかり。みんなやさしく教えてくれた。でも、自分から積極的に質問できるよう成長しなければと思った。

研修の初め頃は毎日緊張していました。でも、講義終了後の新人同士でおしゃべりするうちに毎日がだんだん楽しくなりました。“C セット”などの物品の名前は研修中全く分かりませんでしたが、実践しているうちに理解できるようになりました。



新人研修が丁寧で、毎日振り返りもしっかりできた。少しずつできることも増えました。資料があると自分で振り返ることもできるので、輸液の配合変化や輸液ルートなどの研修も是非受けたいです。

入職当初の研修では、90%以上の職員が「理解できた」と回答してくれていました。入職から2ヶ月が過ぎた5月末に「入職1ヶ月を振り返ろう」研修を行いました。全ての新入職員研修が終わる1年後に向け、「なりたい自分」への手紙を書いてもらいました。手紙は看護部で大切に保管しており、今年度末に実施予定の「2年目ナースになる心構え」研修時に返却する予定です。みなさん一人ひとりが「なりたい自分になれるよう」サポートします。1年間の成長にぜひご期待ください。

竹田寛理事長を偲んで

7月25日未明、桑名市総合医療センターの竹田寛理事長が急逝されました。職員一同は突然の訃報に悲嘆に暮れており、ここに哀悼の言葉を捧げます。

竹田先生は1949年(昭和24年)に津市でお生まれになり、津高校から三重県立大学医学部(当時)に進学されました。卒業後は放射線科医として活躍され、1997年から三重大学医学部放射線科教授、2009年から附属病院長を勤めておりました。2013年に、同病院長を辞して当医療センターに着任されました。竹田先生の人望は桑名市および同医師会の間でもとても高かったようです。桑名市では、2009年に桑名市民病院と平田循環器病院が統合し、地方独立法人桑名市民病院が設立され、2012年に山本総合病院が加わりました。竹田先生の就任時は、医療センターが現在の形になってから4年と日も浅く、課題が山積しておりました。着任後、先ず新病院の建設に着手しました。当時は東京オリンピック開催が決まり、建設費が高騰していた時期でしたが、粘り強く交渉を続け、2018年には新病院が開院、名実共に桑名市総合医療センターが始まりました。新病院建設後も、さまざまな課題がありましたが、それら一つずつ解決されました。常勤医師数は着任当時の2倍弱に増員され、看護師も3割程度増えました。病院機能の面でも、地域災害拠点病院、女性が働きやすい医療機関、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター等の認定を受け、桑名地区における医療の拠点とし、昨年には病院機能評価を受審し、認定証を得ています。また、職場環境の充実にも努められ、院内託児所を直営化しました。

穏やかな人柄で職員から慕われ、どんな職員にも気さくに声をかけておられました。職員のみではなく、外来を担当されている健診センターでも受診者から大人気であり、竹田先生を指名して受診されるリピーターも多くみられました。月刊「理事長の部屋」も愛読者が多いようです。訃報に接し、病院入り口に献花台を設けましたが、多くの皆様から哀悼の言葉をいただいております。

当院の理念は「最良の医療を提供し、地域の皆さまから信頼され必要とされる病院を目指します。」であります。残されました職員一同、竹田先生の遺志を継ぎ、桑名市民あるいは近隣の住民に安心・安全な医療を提供すべく、日々の業務に勤めてまいり所存であります。市民の皆様の温かいご声援を心よりお願いいたします。

桑名市総合医療センター理事長
白石泰三





防災訓練を行いました。

2月21日

大規模災害発生を想定し、マニュアルに基づく初動確認訓練を実施しました。今後も定期的に繰り返し行うことで、災害発生時に円滑な活動が出来るよう体制を整えていきます。



「だれでもピアノ」お披露目会を行いました。

2月29日

「だれでもピアノ」は、新井鷗子客員教授(東京藝術大学)とヤマハ株式会社による共同研究によって開発された自動伴奏機能がついたピアノです。一本指でメロディーを弾くと、伴奏とペダルが自動で追従し、熟練したピアニストのように華麗な曲を奏でることが出来ます。

お披露目会ではたくさんの方に演奏の楽しみを体験していただくと共に、当センター職員によるミニコンサートも開催しました。



いのち 生命の駅伝に 本院スタッフも参加しました。

5月20日

第30回生命の駅伝が行われました。この駅伝は30年間続いており、がん研究の重要性を一般の方々に知ってもらうことを目的に行われており、駅伝を通して集められた募金はがん治療や予防に関する研究活動に活用されます。当センターでは、菰野厚生病院をスタートしたランナーを5月20日に出迎え、翌日は桑名市役所から県立総合医療センターへ向けての出発式を開催しました。当センタからもスタッフ3名が参加しました。



「だれでもピアノ」ファシリテーター 養成講座を行いました。

5月28日

今後も体験会などを定期的に行うため、新井客員教授指導のもと、ファシリテーター養成講座を行いました。

講座では人に物事を教えることの難しさを実感しつつも、みなさん楽しそうに取り組まれていました。また、通りすがりの方も音楽に引き寄せられ「だれでもピアノ」を体験されていました。

